



個人研究

スマート社会

新しい「情報との関わり」



Society 5.0では情報技術と高度に一体化した新しい社会を目標として掲げています。人間が意識的にアプリケーションを操作するのではなく、環境と一体化したデジタル機能が、人々の行動に対して自動的に反応するような在り方を模索しています。

KEYWORDS UXデザイン、環境と一体化するデジタル機能

RESEARCHER

メディア学部 教授 太田高志



主な学会発表・論文・著書・社会活動

[1] Takashi Ohta, "Digital Signage Content Design with Interactive Display Characters," ADADA International 2019, Malaysia, October, 2019

[2] 太田高志, 林大樹, 志賀貞博, 須田隆太郎, "映像中のキャラクターから手渡しでチラシを受け取るデジタルサイネージ," 芸術科学会論文誌, Vol18, No.1, pp.1-9, 2019

[3] Takashi Ohta, Jun Tanaka, "Using Pinching Gesture to Relate Applications Running on Discrete Touch-Screen Devices," International Journal of Creative Interfaces and Computer Graphics, pp.1-20, Vol.4, No.1, 2013

01 | 他のカメラの視点を利用できるカメラアプリ

スマートフォンのカメラを利用する際に、遠方の被写体を十分に大きく撮れなかったり、パレードなどで多くの人が視界を遮っていてうまく撮影できないということがあります。そんな場合に、その場に配置された他のカメラ(360°)に自分のスマートフォン向けのだけでその映像を利用できるアプリを開発しました。



02 | インタラクティブ・デジタルサイネージ

人のアクションに自動的に反応する仕掛けのデジタルサイネージをデザインしています。画面中のキャラクターと直接モノのやりとりすることの驚きで人々の注意を惹きつけたり、禁煙場所での喫煙行為を人に代わって注意するような広告を作成しました。



03 | 情報を伝える地面

地面の振動させ、そのパターンによって、情報を伝える仕組みです。例えば、交差点で視覚が不自由な方にそれぞれの方向の信号の状態を伝えたり、背後からの車の接近を歩行中の人に伝えたりするなど、その場にいるだけで自動的に与えられることを目指しています。

